

恵みに生かされる生涯

創世記六章

「私は、創造した人を地の面から消し去る。人をはじめとして、家畜、這うもの、空の鳥までも。私はこれらを造ったことを悔やむ。」だが、ノアは主の目に適う者であつた。(7、8)

この世が悪に染まるのを見た神は、地上から人を一掃しようと決意されました。ただ一人、ノアだけは悪に染まらず、「ノアは主の目に適う者であつた」と言われています。これを直訳すると、「しかしノアは主の目の中に恵みを見出し」となります。ノアは恵みを恵みとして正しく受け止めることの出来る人でした。神の恵みが足りないのではなくありません。ノアが見いだしていたように、神の目は恵みで溢れているのです。むしろ足りないのは、恵みを恵みとして受け取ることで出来る私たちの信仰ではないでしょうか。神の恵みはどんな人の上にも注がれています。この事実に気づくとき、私たちの毎日の生活はどんなに大きく変化することでしょう。この年も、神は私たちに恵みを注ぎ続けてくださいます。ノアに倣って、主の目の中に恵みを見いだして生きる私たちでありたいと願います。